



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 しらこまひとみ 白駒妃登美



お市の方 (1547-1583)
織田信長の妹で“戦国一の美女”といわれる。初婚相手の浅井長政の死後、25歳年上の柴田勝家に嫁ぐ。娘には茶々・初・江の三姉妹がいる。

【イメージイラスト】アオジマイコ

自ら幸せな家庭をはぐくむ

— 愛の達人・お市の方 ①

＊「お見合い」を見直したい

「結婚はしたいけど、結婚相談所に入会してまではちょっと……」。私は歴史物語の探求とともに「結婚コンサルタント」の活動もしているのですが、独身男女の多くはこんなふうにおっしゃいます。

その方々にお伝えするのは、結婚した会員さんが驚くほどラブラブになっているという事実です。恋愛でもお見合いでも、大切なのは出会いの形ではなくその後にある。そういう意味で「お見合い」という日本の伝統的風習を、私はもう一度見直してもいいのではと感じています。

お見合いが庶民層の風習として定着したのは江戸時代といわれますが、お見合い結婚自体は江戸時代以前にもありました。戦国大名の「政略結婚」もその一つでしょう。

初めて会った日に婚礼を迎えるという話も珍しくないのですから、究極のお見合い結婚といえるかもしれませんね。

そこで今回の主人公「お市の方」のお話です。彼女は兄・織田信長の命令で近江国の小谷城主・浅井長政と結婚。周囲がうらやむほど仲睦まじかったようですが、私がお伝えしたいお市の方の女性としての魅力は、その後にあるんです。

＊三十六歳での再婚

お市の方は「戦国一の美女」といわれる一方、夫の浅井長政もまた、肖像画で見ると限り長身で気品のある、かなりのイケメンです！まさに戦国一の美男美女カップル。ですから「そんなイケメンとの結婚ならそりゃ幸せでしょう」と思う方もいるかも